

本の読み方を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

Q：秋も深まり「読書の秋」なので、今回は「本の読み方」のおはなしですか？

A：（林明夫、以下略）私も含めて、日本人は本を買うことが大好きな方だと思います。

韓国生まれでアメリカのオワシントン D.C.で弁護士をしている私の友人が、「温泉というものに入りたい」というので、6月に佐野市赤見温泉の「一乃館」さんにお連れしたことがあります。夜「学習塾」というものが見たいというので、私どもの教室に案内をし、中学3年生の授業を見学してもらい、生徒の前で英語でスピーチなどしてもらいました。「一乃館」に帰る途中に、郊外型の大き目の本屋さんの前を通りかかったので、案内をしたら、本当におどろいて次のようなことを私に言いました。

「夜の10時を過ぎて、駐車場が車でいっぱいのお店につれてきてもらったら、中は本屋さんだった。10時過ぎなのにこんなにもたくさんの人々が本を買いに来ている。日本人の知性が高い理由が少しわかった。」

彼のことばを聞いて顔が赤くなりそうでしたが、たしかに、日本人は世界でも有数の本好きのようです。（1年に15億冊もの本が出版され、1兆円もの売り上げがあるようです。）ただ、折角、貴重なお金を出して本を購入するのですから、「読み方」を考えることも大事かと思い、今回のテーマにさせて頂きました。

2. 「本の読み方」を考える

Q：本は、いつ、どこで読んだらいいと考えますか？

A：二宮尊徳翁の銅像のように、交通事故等の心配がなければ、山道で薪を背負いながらも本は読めます。アメリカの黒人活動家マルコムX（エックス）のように、刑務所で服役中に本を読み、勉強した人もいます。コンピューターを使ったり、他人に朗読して頂いたテープを聴くことによっても、現代では読書ができます。いつでも、どこでも本は読めるといえます。

Q：もう少し具体的に言って下さい。

A：この文は、シンガポールからヨハネスブルグに行く飛行機の中で書いてます。10時間半もかかるので、近くにいる乗客の皆さんの3分の1位の方は本を読んでいます。そうです。旅行中は読書にとって最適の時間と言えます。又、旅行などと大げさに考えなくても、現代人は行動範囲が広く、「移動」せざるを得ない場合が多いと思われれます。旅行と同じく移動時間を本を読むことに活用したらと思います。

Q：では、旅行や移動時間には、どのように本を読んだらよいのですか？

A：ポケットやカバンの中に、必ず1～2冊の本をしのばせておくことがコツです。初めて読む本よ

り、一度か二度読んだことのある本を旅行中や移動中はお読みになることを、私はおすすめします。

旅行中や移動中は、景色がどんどん変化していくわけですから、非日常の新しい異なった観点から、今まで慣れ親しんだ本に接すると新たな発見や、今までの自分の考え方が深まることが多いからです。1冊のお気に入りの本を、何回も深く読みこむことのために、旅行や移動中の時間をお使いになることをおすすめします。

Q：では、初めて接する本は、どこで、どのように読めばよいとお考えですか？

A：初めて接する本は、できるだけ落ち着いた雰囲気の中で読みすすめるとよいと思います。呼吸を整え、背筋をピンと伸ばし、神経を集中して、ていねいに本には接する必要があります。「ジー」と、できるだけ身体を動かさずに、1時間、2時間と本に没頭することが大事です。

Q：「ジー」としていることができる人などいるのですか。信じられません。

A：「ジー」と余り身体を動かさずことなく、机に向かい本を読んだり、勉強したりする人は山ほどいます。

「ジー」と机に向かい本を読んだり勉強しつづけることができるのは、一つの「能力」と言えます。本を読むことが好きな人や、勉強をすることが好きで苦にならない人は、この「ジー」と机に向かいつづける「能力」をもった人と言えます。

「好きな本」や「好きな勉強」に出会えば、誰でもこの「能力」は身につきますので、今は余り落ち着いて読書や勉強をすることができなくても、気にしないで下さい。

落ち着いて本を読むことや勉強をすることが不得意な人を責めることはしないでほしいのですが、もし、身近に「ジー」と何時間か本を読んだり、勉強に励んでいる人がいたら「尊いことだね。えらいね。」とほめてあげて下さい。自分自身に「ジー」と読書や勉強をし続ける「能力」があり、だれも評価してくれる人がいないときは、「立派になった私」を自分自身でほめてあげて下さい。「能力」は評価されればされるほど、より高くなるからです。

Q：「ジー」として読書や勉強をしつづけることが高い「能力」の一つだとは知りませんでした。

「ジー」と身体を余り動かさずに読書をするということは分かりましたが、では、一体どこで勉強したらよいのですか？

A：読書は精神的な活動なので、精神的に落ち着ける場所ならどこでもいいのです。もっと言えばどこが精神的に落ち着けるか自分自身で知っている人は、どんどん読書がすすみます。自分の部屋や、自分の机があっても全く読書が手につかない人がいます。これは精神的に落ち着かないからと言えます。思い切って捨てるものは捨て、きれいに机の周辺や机の上を整理することをおすすめします。今すぐにできない場合には、12月31日までに、自分の周辺を清らかにし、新年(何と来年は何故か紀元2000年なのです)を迎える一環として、読書をする環境を整えることをおすすめします。

Q：本を読む前や、読んだ後にしない方がよいことはありますか？

A：頭や身体、特に目が疲れると、本を読むどころではありません。本を読む前には、ファミコンやTVに長時間接することは避けるべきです。読書後に、強い刺激を頭脳に与えることも避けるべきです。又、本を読んだ後、大ゲンカをしたり、激しいファミコンゲームをしたりすると、折角頭に入った

ことが、ガチャガチャとかき乱されてしまいます。読書後の過度の刺激は記憶の痕跡を残しにくくすると考えられます。

Q：では、本を読んだ後は、どうしたらよいのですか？

A：散歩をする、星空をながめる、お茶をのむ、ストレッチ体操をする。ぬる目のお湯につかり、身体の疲れをとる。心を静かに保つことを心掛けるべきです。

一番よいのは、本を読んでいて心に残ったことを文章にまとめておくこと。一行でもよいから気に入った文章があれば「書き抜き読書ノート」に写し取っておくとよいでしょう。友人にその本の内容を話したりすることも意義深いと思います。

Q：どんな本を読んだらいいですか？

A：気に入った人が出てきたら、その人の本は書いたもの全部とは言わないまでも、できるだけたくさんお読みになると、その人のものの見方を通して、世の中が見えてきて面白い。

私は学生の時に、法律を勉強しました。刑法や刑事訴訟法などは、東京大学の総長をなさった平野龍一という先生の本をよく読ませて頂きました。一度、平野先生の目を通して刑法や刑事訴訟法の勉強をすると、他の先生のテキストや論文も、少しはわかりやすく読めました。

今、経済に興味があり、MIT(マサチューセッツ工科大学)のポール・クルーグマン先生のテキストや論文集を、英語と日本語訳を用いながら読んでいます。クルーグマン先生の本を何冊かじっくり読むと、何となくクルーグマン先生の目を通して、少しずつですが、「経済」が頭の中にかぶようになりました。

ピカソの絵が気に入ったら、ピカソについての本をさがしつづけるのも面白い。私は、今、「民営化」にも興味があるので、東京に行く毎に、八重洲ブックセンターのような大きな本屋さんに行き、読みきる範囲で少しずつ本を求めては、時間があると読んでいます。インドや中東、ヨーロッパの映画も好きなので、インドや中東、ヨーロッパの本も読むようになりました。

3. おわりにー公共図書館にのぞむことー

Q：本を読んだり、本を借りたりする場として公共図書館があります。何をのぞみますか？

A：1年 365 日、休日を1日もつけない運営をのぞみます。休もうと思えば、いろいろな理由をつけて休むことはできます。休もうと思わなければ、1年 365 日、1日も休まないで開館することはできます。

公共図書館の利用者がのぞむことは、1年 365 日、1日も休まず開館し続けること。ただ、それだけだと思って下さい。

Q：他にありますか？

A：24 時間の開館をのぞみます。貸し出しや、いろいろなサービスは、深夜や早朝はのぞまないにしても、閲覧や読書室の利用は 24 時間にできるだけ早くすべきです。ホームレスの問題は、厳重な処置をとれば、いくらでも防止できます。

公共図書館にのぞむことは、「1年 365 日、1日も休まず 24 時間オープン」これだけです。

Q：ちょっと考えると難しいような気がしますが。

A：誰のための公共図書館か、公共施設か、ということがここでも問題となります。コンビニと同じに考えていけない理由は全くありません。もし、公務員だからという理由でできないのなら、図書館も「民営化」すればよいだけのことです。24 時間オープンの図書館を行政の代りに経営したい人は、民間に山ほどいます。

首長や議員の方々は、先進的な外国の公共図書館を是非視察に行ってください。